

平成22年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472603131	事業の開始年月日	平成17年12月1日	
		指定年月日	平成17年12月1日	
法人名	医療法人社団 仁和会			
事業所名	グループホームひびき			
所在地	(〒252-0232) 神奈川県相模原市中央区矢部2-1-7			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
定員等	認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
		定員計	18名	
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果 市町村受理日		
			ユニット数	2ユニット

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成23年2月22日	評価機関 評価決定日	平成23年5月23日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の概要】</b>          当該事業所はJR横浜線矢部駅から線路沿いに徒歩6分ほどでわかりやすい場所にあり、交通の便がよい。南側は戸建ての住宅街なので、日当たりがよい。建物は耐震構造の鉄筋3階建てで、1階は駐車場、2階・3階がグループホームとなっている。2階と3階の各ユニットの階段には防火扉が設置され、1階からエレベーターで移動できるようになっている。食堂・台所・廊下の共有スペースは回廊式になっており、職員の動線を考えて、入居者への目配りがしやすい配慮された造りとなっている。</p> <p><b>【運営理念と意思の把握】</b>          法人共通の理念「触れ合い、支えあい、認め合い、安らげる生活の場」を理解し、実践に結びつけるよう務めている。入居者一人ひとりへの声かけの工夫がされ、常に笑顔が見受けられ安らいだ快適な環境となっている。</p> <p><b>【適切な医療の受診支援】</b>          経営法人である協力医療機関から月1回内科医の往診があり、全員が納得した上で受診している。緊急時には日頃の様子が変わっているため、対応してもらえる体制が構築されている。希望があれば週1回歯科衛生士が来訪し、口腔ケアや義歯の調整なども受けられる。従前からのかかりつけ医には、家族が受診対応をするが、困難な場合はホーム職員が受診の支援を行っている。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームひびき
ユニット名	2階

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念を職員は把握し、実践につなげるように心掛けているが、地域には密着してない。</p>	<p>「触れ合い、支えあい、認め合い、安らげる生活の場」の理念の下、入居者同士、職員も含め、自由で仲良く、お互いに顔の見える関係を築けるよう職員は声かけや実践に努めている。法人の3つのグループホーム共通の理念として、2階3階の玄関に掲示されフロア会議で取り上げている。</p>	
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域のお祭りには参加しているが、地域の人に受け入れられているかは不明。</p>	<p>矢部自治会に所属し、回覧板も回ってくる。地域の防災訓練には職員も参加した。夏祭りには子どもみこしが立ち寄り、入居者が盆踊りに参加して楽しんだ。ハンドベルや歌と一緒に楽しむボランティアが月に一度訪れる。敬老会には小学生がフラダンスを踊りに来てくれたことがある。</p>	<p>地域住民の一員として、近隣に住む人達と触れ合う機会をさらに増やし、地域で必要とされている活動や役割を今後少しずつ増やしていきたいという事業所の意欲があるので、さらなる取り組みに期待をしたい。</p>
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>			
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的に開催しているが、ご家族からの意見はあまり無い状態。</p>	<p>昨年は年に3回開催し、そのうち2回は家族会と同時開催された。参加者は民生委員、地域包括支援センター職員、地域代表などである。会議では入居者や職員の紹介のほか、火災・災害対策などについてホームから報告し、地域からの独居老人の受け入れについての要望を検討するなど双方向の話し合いの場となるようにしている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>市担当者との連絡は取っていない。生活保護者が入居している為福祉事務所CW.とは連絡を取っている。地域包括センターと相談協力をしている。</p>	<p>市主催の研修に職員が参加したり、介護認定や事故報告などの際には市の担当窓口へ立ち寄っている。運営推進会議に地域包括支援センター職員に参加してもらい、協力体制を構築している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>理解をし、取り組む努力をしているが、入居者の安全のためご家族に同意を得て施錠を行っている。</p>	<p>玄関は原則昼間は施錠していない。入居者の様子を見計らい、帰宅願望が強くなったときなどはフロアによっては施錠することもある。職員間ではカンファレンスで話し合い、拘束をしないケアについて確認し合っている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>学ぶ機会はないが、介護の中で身体の変化や傷を見逃さず、職員がお互いに注意し再発防止に気をつけている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人制度を必要とする方はいないが、必要に応じて活用できるように職員に理解してもらっている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居や退去に関する説明・疑問を解消できるように努力している。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期的に開催をしているが、意見がないのでなかなか反映できていない。</p>	<p>家族会は年に2回運営推進会議と同時開催して意見や要望を伺う場としている。家族からのレクリエーションの機会を増やしてほしいという要望に対し、生活の一部として食事前の口腔体操や、歌を歌うことを取り入れ、雰囲気が明るくなった。毎月1度の便りで入居者の様子をお知らせしており、家族から返事をもらったこともある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関して、説明を受けた事はない。	昨年、職員との個人面談を年に1度行った。面談時の意見を参考に勤務時間帯の職員配置について手薄にならないよう運営に反映させたことがある。申し送りノートで職員からの意見や要望を聞く機会を設けている。月1回のフロア会議で職員が食事の時間を早めることを提案し、取り入れられた。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事務担当者は、管理者や現場の意見を聞いて職員の配置や契約を行っている。それに対して向上心を持って働いているか、個々の意欲による。			
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に参加している。職員の力量を把握しているが、働きながらのトレーニングは新人のみ。			
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者との連携は無い。			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用する段階で本人・ご家族の意見・要望を聞き柔軟に対応できるように心掛けている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前に相談員が要望等を把握して、サービスに繋げている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極める為に、常に本人の訴えに耳を傾け必要であれば、他のサービス利用も検討できるように努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	互いに支え合って生きているという気持ちを持って頂くために、生活の中に役割を持っていただいている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者のご家族にも納得したサービスを受けてもらえる様に、お互いの関係を尊重し対応している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人の面会・外出、文通などができるように支援している。	入居時に家族から、その後も日常的に本人から、馴染みの関係を聞き取り、面会があれば、いつでもホームへ来てもらえるよう声かけをするようにしている。定期的な墓参りや、買い物に家族と一緒にいく入居者の外出支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ったり、場の雰囲気大切に良い関係を築けるように支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今までの生活歴を大切に、希望に合った生活を送ってもらえるように努力しているが、共同生活なので本人の意に反する場合もある。	入居前に訪問して本人や家族から聞き取り思いを把握している。居室担当が日頃から本人の言葉や様子を観察して、申し送り時や管理者との話し合いの中で意向を検討している。困難な場合は表情やしぐさから理解するようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握し、個々に合わせたペースで生活できる様にしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のペースに合わせた生活を送れるように介護する為に、把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行ったり、日々の報告を反映して現状に合ったケアプランを作成している。	入居時のケアチェック表を基に日頃の様子は支援経過で現状を把握している。介護計画は月1度月間記録表などで、食事量・排泄などのチェックをし、フロア会議の中のカンファレンスで職員間で話し合い、医師の意見や家族の意向を確認・検討して見直している。見直し期間は半年の方と1年の方がいる。随時見直しが必要な場合はその都度行い、申し送りノートにより職員間で情報を共有している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有できるように介護記録に残し、見直しを行う時に反映している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に合ったサービスを提供できるように努力してる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の時などにボランティアを受け入れたり支援を行っている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がある方は継続して受診対応し、特にない方は法人内の医療機関を利用し柔軟な対応をしている。	内科は全員訪問医に受診している。他科に関しては希望するかかりつけ医に受診している。家族が付き添いできない場合は、ホーム職員が対応している。受診時には薬情報をはじめ診察内容を確認している。訪問歯科が週一度あり、必要な方は歯科衛生士による口腔ケアを受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>月一の訪問診療時に相談報告をしている。職場内には看護職員がいないので、身体状況を把握し法人内の医療機関に相談をしている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院・退院時にスムーズに対応できるように、月一の訪問診療時に情報を共有できるようにしている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>チームは無いが、状態に合わせてご家族と今後について話し合い、意見や方向性を決める場を作っている。</p>	<p>重度化した場合は、入居者の状態を面会時などに繰り返し家族と話し合い、訪問医からの意見や家族の意向を確認し、事業所としてできることを説明している。話し合いの内容については経過記録に記載している。経営母体の医療法人と連携をとって緊急時にも対応できる体制をとっている。看取りの事例はない。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的には行ってないが、マニュアルがあり対応できるようになっている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を定期的に行って、対応できるようにしている。</p>	<p>年に2回避難訓練を行っている。今年度は消防署立会いで、夜間を想定した避難訓練を実施する予定となっている。自治会主催の防災訓練に職員が参加した。設備点検が年に2回行われている。建物が耐震構造となっており、スプリンクラーの設置もある。備蓄は水・食料を3日分確保している。近隣住民の協力はまだ得られていない。</p>	<p>夜間想定避難訓練も消防署と連携し行う予定となっており、事業所内での訓練は定期的に行っている。今後は近隣住民との更なる触れ合う機会を増やし、避難訓練に地域の住民に見学に来てもらう事などを通して、協力体制を築いていけるような取り組みに期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみや馴染みの関係を保ちつつ人格を尊重した声掛け・対応をしている。	個人ファイルは鍵のかかる事務所の引き出しに保管をしている。月1回のフロア会議で、人格を尊重した声かけや言葉使いについて話し合いを持ち、徹底するように努めている。気がついたときには、お互い個別に注意し合っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えや表現がなくても、本人の意思決定を尊重できるように働きかけている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を尊重し日々を過ごして頂ける様に対応している。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、洗顔が出来ない方には温タオルにて顔を拭き、身だしなみを整えている。			
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むき・テーブル拭きなどお手伝いをして頂き役割分担をしている。職員と一緒に調理・摂取を楽しめるようにしている。行事食で食べたい物を反映している。	おせちや七草がゆ・誕生会での好みのおやつ選択など、行事食をはじめ、出前を取ったり、年に2度の外食を楽しむ支援をしている。当番の入居者が「いただきます」と号令をかけ食事を始め、テーブルでの食事や下膳を職員と一緒にしていた。職員はテレビの話題や世間話をして、楽しい食事ができるよう雰囲気作りに努めていた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>摂取量をチェック表で把握をし、それに合った対応をしている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>個々の残存能力に応じて毎食後口腔ケアを介助・見守りを行っている。週1でし</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>定時・随時トイレ誘導し、便尿意の消失がないように支援している。</p>	<p>排泄チェック表で職員がパターンを把握し、さりげない声かけでトイレに誘導している。一人ひとりの様子を察知し、個別の排泄支援に努めている。失禁したときは本人が傷つかないように安心してもらえるような声かけに配慮している。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘がちな方には運動や牛乳を飲んで頂くなど工夫をし、薬に頼らない様になっている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>基本的には曜日は決まっているが、身体の汚れや希望・体調により対応できるようにしている。</p>	<p>週に2回の午前中の中の入浴が原則であるが、入居者の意向や体調にあわせ午後の時間帯も対応している。個々の身体状況に合わせてリフトやチェアを使った入浴もできる。好みの入浴剤を使ったり、季節によりゆず湯や菖蒲湯を楽しんでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて休憩時間を取っている。布団や室温に考慮し、安眠できる様に支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも薬の説明書を見ることができるようになっているが、全員がおこなっているか不明。服薬確認は必ず行い、薬に変更があった時は申し送りをし変化に注意をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	充実した生活を送れるように、役割をもって生活できるように支援している。散歩・買い物・家事等。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	特に希望を言う方はいないが、傾聴し積極的に支援している。行事で外食や買い物に行くようにしている。	行事計画予定に沿って、公園に行ったり、外食や、相模川のこいのぼり見学など毎月出かけられるよう支援している。車いすの方も車で参加できるよう対応している。家族も一緒にでかけ外食を楽しんでいる。その日の希望により、職員が付き添い近くのスーパーに買い物に行くこともある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は基本的に事務所管理しているが、自己管理できる方は把握できる範囲で所持している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・友人に電話や手紙を書いたり、希望を尊重している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温・湿度の管理をし、季節感のある雰囲気作りを行っている。	共用空間は台所・廊下・食堂が回廊式につながっており、入居者の様子を見守りができ、温度や湿度の調節がしやすいように工夫されている。お雛様や職員と一緒に製作した貼り絵などが、季節感や家庭的な雰囲気をかもし出している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内に個別で座れる椅子や和室があり、自由に過ごせる場がある。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家具の持ち込みをしてもらい、馴染みの物を使用して心地よく過ごせるように工夫している。	使い慣れたベッド・タンス・テレビなどや家族の写真を持ち込み、居心地よく過ごせる環境の居室となっている。作り付けの収納スペースは、希望に応じて棚をとりはらずに馴染みの家具を入れて使用することもできる。入居者の身体状況や精神状況に応じて部屋を移るなど個別に対応し、落ち着ける空間となるよう心掛けている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく自立した生活を送って頂く為に見守り介助をし、自由に生活を送って頂けるようにしている。		